

特定複合観光施設区域整備計画審査委員会（第18回） 議事要旨

1. 日時：令和4年12月2日（金）15:00～17:00
2. 開催方式：対面（中央合同庁舎2号館12階国際会議室）及びWEB会議
3. 議題：
 - （1）ヒアリング
 - （2）事務局からの説明事項
 - （3）今後の審査の進め方について
4. 出席委員：竹内健蔵委員長、山内弘隆委員長代理、朝岡大輔委員、河島伸子委員、樋口進委員、矢ヶ崎紀子委員
5. 議事要旨（✓：事務局 ○：委員 ◆：申請者）
 - ✓ 長崎へのヒアリングを実施した。申請者とのやり取りは以下のとおり。
 - ✓ シニアローンは、資金調達にあたって欠かせない要素ということでよいか。
 - ◆ ご認識の通りである。
 - ✓ アレンジャーの1社について、投資銀行部門の大部分を売却し、圧縮するという報道があったところ、同社が提出しているレターは資金調達の確実性の証左とはならないのではないか。
 - ◆ 当該アレンジャーからCASINOS AUSTRIA INTERNATIONAL JAPAN株式会社（以下「CAIJ」という。）等に対し、投資銀行部門が分離される予定であるが長崎IRへの資金調達能力に影響を与えるものではないこと、財政基盤は依然として強固であることが報告がされたと聞いている。
 - ✓ 当該アレンジャーのレターは投資銀行部門から出されているということで間違いないか。また、レターの署名者の一人が辞任されるという報道が出ている。投資銀行部門が別の会社に引き継がれるとしても、そこから出されたレターは無価値となっていないか。
 - ◆ レターは投資銀行部門から出されている。また、署名者が辞任した場合も法人としてレターが提出されており、その責任と業務は新しい会社に引き継がれるため、問題はないと認識している。
 - ✓ その場合は、承継会社との関係でレターが必要になると思われる。引き続きやりとりさせていただきたい。

- ✓ レターにおいて、シニアローンで資金提供する旨が書かれていない。シニアローンというのは、口頭でやり取りした内容なのか。
- ◆ ご指摘の点については、アレンジャーからシニアローンとしての融資の意向と説明を受けている。CAIJに共有し、各アレンジャーからシニアローンの取り扱いに関する新たなレター等を提出してもらえないか打診している。追って参考資料として提出させていただきたい。
- ✓ シニアローンはローンの中で基礎になる部分と考える。今からシニアローンを出す旨のレターを提出することは提出期限との関係を整理する必要がある。

- ✓ キャッシュフローで設定されている利率より、アレンジャーのタームシートで示されている借入金の利率の方が数%高く、整合性がとれていない。タームシートの利率で借り入れると、再投資に回る額が減少するのではないか。
- ◆ 申請時の金融環境で作成した。その後現時点までに世界的に金利が上昇したこともあり、8月末時点よりも確実性の高い事業計画として、金利が上昇した場合の財務三表を改めて提出している。

- 財務的な条件設定に幅があり、今後の交渉次第で条件が決まっていくという状況では、資金調達の安定性、確実性がみえてこないと感じる。

【ヒアリング終了後】

- 客観的にみて、資金調達の確実性の熟度がとても低い。申請から数ヶ月経っている中であまり進捗がないところをみると、資金拠出をする金融機関の方で検討がとまっているように見受けられる。

以上